

【豊山町】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

子どもたちを取りまく社会や環境は大きく変わってきている。しかし、将来を担う子どもたちの健やかな成長を願う気持ちは、いつの時代でも変わらない。子どもが安心安全で学ぶことができる環境をつくることは、喫緊の課題である。

本町では、1 人 1 台端末を活用することで「子どもたちが自発的に課題に取り組み、夢と志をもって可能性に挑戦する児童・生徒の育成」を目指している。

1 人 1 台端末の環境があれば、多くの有益な情報をもとに児童・生徒自らが必要とする情報を取捨選択し、自分の意見や考えをもつことへの一助となり、主体的対話的で深い学びを実現するための授業改善につながると考える。

このように1 人 1 台端末を活用した環境の中で、個別最適な学びと協働的な学びにより、全ての子どもたちの学びが保障できるようにしていく。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期では、端末としてiPadを児童生徒及び教職員に整備してきた。

また、各校の無線LAN環境を整備するとともに、ネットワークをセンター集約型にし、各校1 Gの回線に増強するとともに、センターサーバーからインターネットへの回線も増強して、クラウド環境を十分に活用することができる環境整備をしてきた。

新型コロナウイルス感染症に伴う一斉休校があつてから、徐々にタブレット端末が学校に整備された。以後学校では、臨時で休校となった際にタブレット端末を持ち帰らせ、休校期間中の学習課題や連絡事項を、タブレット端末を通して配信し共有した。子どもたちの学びの保障をどうするかを改めて考える機会となった。

小学校低学年では、ローマ字による入力ができないことから、かなによる入力をしてきた。活用として多かったことは、写真をタブレット端末で撮影し、花や野菜の記録を取り、記録カードを作成したり、操作により写真を拡大・縮小しながらじっくりと観察をしたりすることができ、学びを深めることにつながった。また、動画機能を使うことにより、体育科等で動きを伴った学習をいつでも振り返ることができ、比較したり見つけたりなど、多様な考え方を育むことができた。

中学生を含む小学校高学年以上では、教科書や集めた情報をもとに整理をしたり分析をしたり、タブレット端末を活用して、個別最適な学びの実現に向けて取り組んだ。また、ペアやグループ活動において、タブレット端末を使って個の考えを級友と瞬時に共有し、練り上げた内容を学級全体にもタブレット端末やスク

リーンを通して提示できたことで、互いの意見や考えを理解し、子どもの学びを助けることになった。

このように、1人1台端末を活用してきたことで、子どもたちが自発的に取り組み、可能性に挑戦する児童・生徒の育成に努めた。学習の基盤となる情報活用能力の育成や情報の整理及び分析の方法等の情報教育についても、培うことができた。

このような取組を通して、以下の調査結果を分析した。

令和6年4月に実施された全国学力学習状況調査の学校質問紙では、特に以下の項目については、町内全校において実施されている。

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。 ⇒〔回答項目の基準〕 毎日の活用
--

以下の項目については、全国と同程度であるため、これについては今後、全校で確実に実施できるように取り組んでいく。

前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。 ⇒〔回答項目の基準〕 毎日の活用
--

教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。 ⇒〔回答項目の基準〕 週3日以上
--

調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。 ⇒〔回答項目の基準〕 週3日以上
--

なお、以下の項目については、全国を下回っているため、すでに実施している学校の活用状況を共有し、全校で実施できるように取り組んでいく。

調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。 ⇒〔回答項目の基準〕 週3日以上

調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。 ⇒〔回答項目の基準〕 週3日以上
--

成果としては、タブレット端末を授業でほぼ毎日活用したり、大型提示装置等のICT機器の活用や児童・生徒がやりとりをするために週3日以上使用した割合が全国と同程度であったりしたことから、適切かつ有効な活用ができた。

課題としては、児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表したり、自分の特性や理解度及び進度に合わせて課題に取り組んだりする場面においての活用が進んでいないことが分かった。子どもたちの思考力・判断力・表現力をさらに育成するための授業改善が必要である。引き続き、環境整備を行い、多面的多角的な学習と支援ができるように努めていく。

町内全ての学校において、活用の充実が図られていないことが分かった。個別最適な学びと協働的な学びのさらなる実現に向けて今後も検討していく。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第2期における端末の整備及び更新を行うが、1人1台端末の環境を引き続き維持できるようにしていく。上記の調査結果からも、タブレット端末の日常的な活用はほぼできていたが、個別最適な学びと協働的な学びの充実については課題が残った。これらを実現するための手立てとしては、環境を整備することも大切であるが、教職員が個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業展開ができるように研修等において力量向上を図る必要がある。本町では、ICT教育推進委員会における1人1台端末の活用についての練り上げや各校における現職研修の在り方について改善を図るなどを積極的に取り入れていきたい。また、ICT支援員の配置を継続して行っていく。定期的に保守点検を兼ねて学校を訪問し、授業における活用方法の支援や授業改善に向けて参考となる資料等の提供を行うことで、さらに1人1台端末の効果的な活用を図っていきたい。

1人1台端末を活用した学びの保障についても、取組を継続していく。特別な支援を必要とする児童・生徒に対しては、端末を活用した指導や支援が増えてきているのが現状であり、読むことや書くこと、考えを発表したり共有したりすることの一助となっている。さらなる学習意欲の向上につなげていくためにも、保護者や地域の理解が促進されるように努めていく。不登校や外国人児童生徒への支援についても、有効な活用方法を今後も検討していく必要がある。